

25年漁期 さんま漁獲可能量(TAC)案について

(単位:万トン)

魚種	系群	資源状態		ABClimit(日本EEZ)					TAC				備考
		水準	動向	22年	23年	24年	25年	漁獲シナリオ (管理基準)	22年	23年	24年	25年(案)	
さんま	【中期的管理方針】 漁獲量の増大により漁獲金額が減少する傾向に留意し、将来に向けて安定的な供給を確保する観点から、資源に悪影響を与えない範囲内において、漁獲可能量を設定するものとする。												【TAC設定の考え方】 中期的管理方針に則して、資源に悪影響を与えない範囲内において、漁獲可能量を設定することから、「④親魚量に悪影響を与えないと考えられる漁獲圧」(33.8万トン)とし、TAC(案)33.8万トンとする。
	太平洋北西部	中位	減少	121.1	42.3	103.5	33.8	親魚量に悪影響を与えないと考えられる漁獲圧(④)	45.5	42.3	45.5	33.8	

【資源評価結果】

〈参考〉 Blimitと親魚量

	資源の状態		資源量(親魚量)の状態	漁獲シナリオ(管理基準)	2013年漁期漁獲量(万トン)	評価		2012年親魚量	Blimit
	水準	動向				5年後に現状親魚量を維持する確率	5年後にBlimitを維持する確率		
太平洋北西部系群	中位	減少	-	ABClimit				80.4万トン	未設定
				*① 現状の漁獲圧の維持(Fcurrent)	24.0(13.2)	-	-		
				*② 親魚量に悪影響を与えないと考えられる漁獲圧(0.9F70%SPR)	33.2(18.2)	-	-		
				*③ 親魚量に悪影響を与えないと考えられる漁獲圧(0.9F60%SPR)	48.5(26.6)	-	-		
				*④ 親魚量に悪影響を与えないと考えられる漁獲圧(0.9F50%SPR)	61.6(33.8)	-	-		

注1) 2013年漁獲量の()内は、日本の漁獲量であり、2007年～2011年漁期の全漁獲量に対する日本の漁獲量の割合の平均から算出。

注2) 再生産関係が明らかでないのでBlimit(回復措置をとる資源量の閾値(以下同じ))は算出できないが、漁獲割合が低いので、 $B > B_{limit}$ であると考えられる。

注3) 再生産関係が明らかでないので将来漁獲量の予測やリスク評価は行えなかった。

注4) *のついたシナリオが、中期的管理方針に合致する。

25年漁期 さば類漁獲可能量(TAC)案について

(単位: 万トン)

魚種	系群	資源状態		ABClimit(日本EEZ)					TAC				備考			
		水準	動向	22年	23年	24年	25年	漁獲シナリオ (管理基準)	22年	23年	24年	25年 (案)				
さば類	<p>【中期的管理方針】 まさばの太平洋系群については、近年の海洋環境が当該資源の増大に不適な状態にあると認められないことから、優先的に資源の回復を図るよう、管理を行うものとし、資源管理計画に基づく取組の推進を図るものとする。 ごまさばの太平洋系群については、資源を中位水準以上に維持することを基本方向として、管理を行うものとする。 まさばとごまさばのその他の系群については、大韓民国及び中華人民共和国等と我が国の水域にまたがって分布し、外国漁船によっても採捕が行われていて我が国のみでの管理では限界があることから、関係国との協調した管理に向けて取り組みつつ、当面は資源を減少させないようにすることを基本に、我が国水域への来遊量の年変動も配慮しながら、管理を行うものとする。また、まさばについては資源管理計画に基づく取組の推進を図るものとする。</p>												<p>【TAC設定の考え方】 中期的管理方針に則して、ベースとするABC(漁獲シナリオ)は、まさばでは、太平洋系群「④親魚量の増大(27.1万トン)」、対馬暖流系群「③親魚量の維持(14.6万トン)」、ごまさばでは、太平洋系群「③親魚量の維持・漁獲量の増加(23.4万トン)」、東シナ海系群「②現状の漁獲圧の維持＝親魚量の維持(5.0万トン)」とし、これらの合計値70.1万トンと同数のTAC(案)とする。</p>			
	まさば	太平洋	低位	増加	22.5	26.4 (26.6)	26.7 (28.4)	27.1	親魚量の増大 (④)					※TACの管理期間は、「7月～翌年6月」		
		対馬暖流	中位	横ばい	13.3	16.8 (18.6)	16.5 (14.9)	14.6	親魚量の維持 (③)							
	ごまさば	太平洋	高位	横ばい	22.5	22.2 (22.5)	20.3 (30.1)	23.4	親魚量の維持・ 漁獲量の増加 (③)							
	東シナ海	中位	増加	5.6	6.0 (5.0)	5.0 (5.0)	5.0	現状の漁獲圧の 維持＝親魚量の 維持(②)								
合計				63.9	71.4 (72.7)	68.5 (78.4)	70.1		63.5	71.7	68.5	70.1				

注) ABClimit(日本EEZ)の下段()書きについては、再評価後の数量。

【資源評価結果】

まさば	資源の状態		資源量(親魚量)の状態	漁獲シナリオ (管理基準)	2013年漁期漁獲量 (万トン)	評価		2011年親魚量	Blimit	過去最低親魚量
	水準	動向				5年後(10年後)にBlimitへ回復する確率	5年間に過去最低親魚量を下回る確率			
太平洋系群	低位	増加	<Blim	ABClimit				300千トン	親魚量 450千トン	40千トン
				*① 親魚量の増大 (Fcurrent × B/Blimit) (Frec)	19.2	63% (82%)	0%			
				*② 親魚量の増大(5年でBlimitへ回復) (Frec1)	23.5	50% (66%)	0%			
				*③ 現状の漁獲圧維持 (Fcurrent)	26.5	39% (53%)	0%			
			*④ 親魚量の増大(10年でBlimitへ回復) (Frec2)	27.1	37% (50%)	0%				

まさば	資源の状態		資源量(親魚量)の状態	漁獲シナリオ (管理基準)	2013年漁期漁獲量 (万トン)	評価		2011年親魚量	Blimit
	水準	動向				5年後に現状親魚量を維持する確率	5年後にBlimitを維持する確率		
対馬暖流系群	中位	横ばい	>Blim	ABClimit				262千トン	親魚量 247千トン
				*① 親魚量の増大 (F30%SPR)	24.3 (10.4)	99%	99%		
				*② 現状の漁獲圧の維持 (Fcurrent)	32.1 (13.8)	64%	67%		
			*③ 親魚量の維持 (Fmed)	34.1 (14.6)	48%	53%			

注1) 対馬暖流系群の2013年漁期漁獲量の()内は、我が国200海里の値。

注2) *のついたシナリオが、中期的管理方針に合致する。

資源評価結果

ごまさば	資源の状態		資源量(親魚量)の状態	漁獲シナリオ (管理基準)	2013年漁期漁獲量 (万トン)	評価		2011年親魚量	Blimit
	水準	動向				5年後に現状親魚量を維持する確率	5年後にBlimitを維持する確率		
太平洋系群	高位	横ばい	>Blim	ABClimit				283千トン	親魚量 38千トン
				*① 親魚量を高水準で維持 (F30%SPR)	17.1	29%	100%		
				*② 現状の漁獲圧の維持 (Fcurrent)	17.8	28%	100%		
			*③ 親魚量の維持・漁獲量の増加 (F20%SPR)	23.4	13%	100%			
東シナ海系群	中位	増加	>Blim	ABClimit				66千トン	親魚量 36千トン
				*① 親魚量の増大 (F30%SPR)	4.5 (3.9)	96%	100%		
			*② 現状の漁獲圧の維持 (Fcurrent) = 親魚量の維持 (Fmed)	5.9 (5.0)	40%	79%			

注1) 東シナ海系群の2013年漁期漁獲量の()内は、我が国200海里の値。

注2) *のついたシナリオが、中期的管理方針に合致する。

25年漁期 ずわいがに漁獲可能量(TAC)案について

(単位: トン)

魚種	系群	資源状態		ABClimit(日本EEZ)					TAC				備考											
		水準	動向	22年	23年	24年	25年	漁獲シナリオ (管理基準)	22年	23年	24年	25年 (案)												
ずわいがに	<p>【中期的管理方針】 日本海系群、太平洋北部系群及び北海道西部系群については、資源の維持若しくは増大を基本方向として、安定的な漁獲量を継続できるよう、管理を行うものとする。特に、日本海系群については、その主たる生息域に日韓北部暫定水域が含まれており、同水域で大韓民国漁船によっても採捕が行われていることから、同国との協調した管理に向けて取り組むものとする。 オホーツク海系群については、ロシア連邦の水域と我が国の水域にまたがって分布し、同国漁船によっても採捕が行われていて我が国のみでの管理では限界があることから、同国との協調した管理に向けて取り組みつつ、当面は資源を減少させないようにすることを基本に、我が国水域への来遊量の年変動にも配慮しながら、管理を行うものとする。</p>												<p>【TAC設定の考え方】 【西部日本海(A海域)】 中期的管理方針を踏まえ、資源の維持及び安定的な漁獲量を継続できることを基本方向とし、「⑤現状の漁獲量の維持(3,800トン)」をベースに同数のTAC(案)3,800トンとする。 【北部日本海(B海域)】 中期的管理方針を踏まえ、資源の維持及び増大を基本方向とし、「②親魚量の確保(490トン)」と同数のTAC(案)490トンとする。 【太平洋北部系群】 中期的管理方針を踏まえ、資源の増大及び安定的な漁獲量を継続できることを基本方向とし、「③現状の親魚量の維持(440トン)」と同数のTAC(案)440トンとする。 【オホーツク海系群】 中期的管理方針を踏まえ、ロシア水域とのまたがり資源であることから、最大の来遊状況に対応できるよう、近年の最大漁獲量(443トン)をベースにTAC(案)500トンとする。 【北海道西部】 中期的管理方針を踏まえ、現行の漁獲量を継続できるよう、「1997年度以降の最大漁獲量:43トン(参考扱い)」と同数のTAC(案)43トンとする。</p>											
	西部日本海(A海域)	中位	減少	4,400	5,000	4,300	3,100	現状の漁獲圧の維持(④)	4,400	4,400	4,300	3,800												
	北部日本海(B海域)	高位	横ばい	390	420	480	490	親魚量の確保(②)	310	360	480	490												
	太平洋北部	中位	減少	376	424	558	440	現状の親魚量の維持(③)	376	424	558	440												
	オホーツク海	低位	横ばい	(450)	(420)	(290)	(160)	(資源の動向に合わせた漁獲の継続)	1,000	1,000	1,000	500												
北海道西部	高位	横ばい	(43)	(43)	(43)	(43)	(1997年度以降の最大漁獲量)	43	43	43	43	※TACの管理期間は、「7月～翌年6月」												
合計			(5,659)	(6,307)	(5,671)	(4,233)		6,129	6,227	6,381	5,273													

注) オホーツク海系群及び北海道西部系群では、既存の情報からは資源量の算定が困難なことから、ABCは参考扱い。

資源評価結果

〈参考〉 Blimitと親魚量

ずわいがに	資源の状態		資源量(親魚量)の状態	漁獲シナリオ(管理基準)	2013年漁期漁獲量(トン)	評価		2012(2011)年親魚量	Blimit
	水準	動向				5年後に現状親魚量を維持する確率	5年後にBlimitを維持する確率		
日本海系群(A海域)	中位	減少	>Blim	ABClimit				2,800トン	親魚量 2,400トン
				*① 親魚量の増大(0.61Fcurrent)	2,000	99%	100%		
				*② 直近の親魚量の増大(0.88Fcurrent)	2,800	93%	97%		
				*③ 直近の親魚量の維持(0.98Fcurrent)	3,000	88%	95%		
				*④ 現状の漁獲圧の維持(Fcurrent)	3,100	88%	94%		
算定漁獲量									
				*⑤ 現状の漁獲量の維持(1.30Fcurrent)	3,800	62%	78%		
日本海系群(B海域)	高位	横ばい	-	ABClimit				-	未設定
				*① 現状の漁獲圧の維持(Fcurrent)	280	-	-		
				*② 親魚量の確保(F40%SPR)	490	-	-		
				*③ 適度な漁獲圧による漁獲(F0.1)	500	-	-		
				*④ 親魚量の確保(F30%SPR)	660	-	-		
太平洋北部系群	中位	減少	>Blim	ABClimit				280~456トン	親魚量 280トン
				*① 現状の雌雄別漁獲量の維持(Ccurrent)	210	90.6%	99.8%		
				*② 現状の雌雄別漁獲圧の維持(Fcurrent)	346	71.4%	99.0%		
				*③ 現状の親魚量の維持(1.3Fcurrent)	440	52.3%	97.3%		
オホーツク海系群	低位	横ばい	-	* 資源の動向に合わせた漁獲の継続(1.0・Cave5-yr・0.92)	(160)			-	未設定
北海道西部系群	高位	増加	-	* 1997年度以降の最大漁獲量(C1997)	(43)			-	未設定

注1) オホーツク海系群及び北海道西部系群では、既存の情報からは資源量の算定が困難なことから、定量的な評価は行っていない。

注2) *のついたシナリオが、中期的管理方針に合致する。